

田村正徳, 前田浩利(監修)

日本小児在宅医療支援研究会(編集)

はじめよう!おうちでできる

子どものリハビリテーション&やさしいケア

評者 横山美佐子

北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科理学療法専攻

私は本書を、小児の在宅医療やリハビリテーションにかかわる医療関係者や家族だけでなく、すべてのリハビリテーションにかかわる医療関係者にお勧めしたいと思っています。

日本において、総出生数は減少していますが、体重2,500g未満の低出生体重児は右肩上がりに増加している現状です。また、医学の進歩とともに、低出生体重児や医療的ケア児、重症心身障害児は、長く生きることができる時代となりました。そして、子どもたちは、あっという間に大人になります。

このような背景のもと、2018年に「成育医療等基本法」が成立しました。この法律は、出生に始まり、新生児期、乳児期、学童期および思春期の各段階を経て、成人になるまでの間に生ずる心身の問題等に対し、当事者・保護者・妊産婦に対して、医療・保険・教育・福祉等の成育医療等で切れ目なく提供するための施策です。そのなかで、医療関係者の責務として、「成育医療等を必要とする者の置かれている状況を深く認識し、良質かつ適切な成育医療を提供するよう努めなければならない」と明記されています。

本書は、子どもの人生を見据えた新生児医療の第一人者である田村正徳医師と小児在宅医療の始まりを構築された前田浩利医師が監修され、小児医療に携わるスペシャリストたちが書き下ろした書です。

小さく生まれた子どもと医療的ケアを受ける子ども、重い障害のある子どもやその保護者が、在宅で生き活きとした生活ができるように、その支援をするリハビリテーション専門職や看護師、福祉職の方などに必要な成育医療の知識(呼吸・循環・発達・姿勢・補装具・摂食・栄養・睡眠・社会制度や災害対策など)が、やさしい色味のイラストや表でわかりやすく整理されています。

このような内容のうえ、リハビリテーションやケ

アの目的や手順などが詳しく記載されているので、今まで子どもとどのように関わったらよいかと悩んでいたセラピストなどにとっては、すぐに実践できる内容になっています。また、小児専門の医療関係者などが、どのように考え、どのように支援しているかもわかります。家族にとっては、発達表や発達ごとのおもちゃの情報、子どもとのコミュニケーションの取り方などが詳細に書かれていますので、インターネットやママ友からの情報ではなく、専門家の情報がつまった育児書として活用できそうです。もちろん、不安な箇所があったらこの本をもとに、主治医に聞いたり、他の小児医療等の専門家に質問もできるのではないのでしょうか。

最後に私事ではありますが、わが子2人も小さく生まれ、人工呼吸器や保育器がなければ生きられませんでした。2人は成人しましたが、そのライフステージごとに、医療・福祉・教育関係者の支えがあって、彼らしく生活ができ、私も親として育てていただきました。私たち親子を支えてくださった方々に感謝しつつ、本書を活用して、子どもたちを支える専門家のそれぞれの立ち位置から、親子の自立を支えてほしいと願っています。

B5判・320頁・4色刷
定価：本体4,800円＋税
三輪書店刊、2019年